

新大における大学学習法の実践

新潟大学経済学部 佐藤 芳行

経済学部の佐藤でございます。資料に沿って、説明をさせていただきます。

私の提出した資料は非常に短く、話の骨組み（スケルトン）だけでして、もう少し具体的なデータを添付すればよかったかと思っています。それで今日は、3つの柱について報告するよという依頼をあらかじめ受けていましたので、その順に沿って簡単に説明させていただきますと思います。

まず第一の初年次教育の位置づけですが、経済学部には経済学科と経営学科という2つの学科がございます。経済学科に入った学生は経済学を、経営学科の方は経営学とか会計学とかを中心に勉強するわけですが、それぞれかなり裾野が広くて、領域が広いものですから、学生としてはどういう順序で何を勉強したらいいのかということが、少し捉えづらいということがございました。

そこで今年度から、コース制を導入しました。経済学科は2コース、現代経済学コースと、それからグローバル経済コース。理論的なコースと、もう少し実証的な、地球上の各地域の経済の実情を勉強するコースです。それから経営学科の方は企業経営、パブリック・マネジメント（公共経営）、それから会計という3つのコース。合計5コースを設定しました。

このコースは2年次から始まり、1年次はコース選択のための準備期間となり、共通の基礎的な科目を中心に勉強する時期というふうに位置づけられることになります。

ただし、コース制を設けたといっても、自分のコースを中心に専門的にその狭い領域だけ勉強していたということではありません。むしろ、先ほども言いましたように経済学といっても、非常に領域が広いので、初年度からメリハリの効いた勉強ができるようにするといったことを意図したわけです。

つまり初年度から履修モデルにしたがって計画的に学習ができるようにしたということ、そういう趣旨がございます。けっして狭い領域に押し込めようという、そういう意味ではありません。

そういうことで、今年大幅な改革をいたしました。そういう中で大学学習法をどう位置づけるかということが問題になってくるわけですが、そこで2番目の学習法の実践、現在の状況について説明します。

経済学部の大学学習法は、平成13年度に最初に導入されました。大学学習法は基本的には経済学基礎論、あるいは経営学基礎論という名称で実施してまいりました。その位置づけですけれども、経済学部では2、3年次に演習が入っております。以前は4年次だったのですが、いろいろな事情がありまして2、3年次に移動しました。そして4年次には卒業論文をできるだけ書いていただくという、そういうことになっているのですが、その演習のためのプレゼミというか、導入的な科目として位置づけてきました。

もう少し具体的にいいますと、その目的は2つあります。1つは演習のための導入準備科目という位置づけです。それからもう1つは、プレゼンテーションの技法を修得してもらうという目的です。

前者の目的のためにはどういうことをやってきたかといえますと、1つは演習クラスの選択を学生は1年次の最後にしないとイケないわけですが、そのためにスタディスキルズを利用してきました。

大教室に学生を集めまして、各教員から自分のところではどういう勉強ができますという説明をしていただく。あるいはその後、学生に実際のゼミに出席してもらって見学してもらうということをおこなってきました。実際には参加し討論に加わってもらえばいいのですが、なかなかそこまではできませんので、今のところは実際にはただ見学をするという状況に留まっております。

それから後者のプレゼンテーションの技法修得ですけれども、具体的にはどんなことをやっているかといえますと、OHPの作成法を教えます。これはパソコンが不足しているという事情もありまして、パワーポイントを使いたいという先生もいらっしゃるのですが、基本的にはOHPを使っております。

それからプレゼンのウォーミングアップのために自己紹介をします。その後、テーマに沿って調べてもらって、報告をする。そして質疑応答をするという、そういった技法を教えております。

以上がおよその方法ですけれども、今年度は先ほど述べたコース制の導入ということもありまして、内容について少し変更点がありました。

私は経済学科の方に所属しておりまして、経営学科の方については必ずしも詳しくないのですが、1つは

コース選択をしないといけないので、その選択のための方法を学生に知ってもらうために、そのことを大学学習法の中に組みこむということです。

それからこれまではプレゼンテーションのテーマを、あなたはなぜこれこれの演習を選んだのですかという、選択理由を説明させていたわけですが、しかしこれはあまり好ましくないのではないか、むしろ学生がどういう関心を持っているかという、そちらの学生の主体性を引き出すべきではないだろうかという反省がありまして、学生の関心に合わせたテーマを学生自身が設定をして、それについて調べてきて報告をするという、そういった方向にすることにしました。この方が質疑応答がいろいろな意味で生産的だろうということで、昨年度からの議論を踏まえて今年はそのようにしました。

経営学科の方ですけれども、現在大幅に内容を変更するということを検討中でございます。基本的には今年度についてはあまり大きな変更をしないというふう聞いております。以上が、大きな枠組みの2番でございます。

今後の課題というところですが、今年度コース制を初めて導入したので、その問題点を今後検証していった、プラス面、マイナス面を明らかにしていかなければいけないのではないかというふうに考えます。

それから大学学習法の内容についてですが、これまでも大小さまざまな問題が会議の場や、あるいは個人的な会話の中で指摘されてきたわけですが、これについても現状でいいのかどうか、少し検討が必要ではないだろうかというふうに考えております。

どういう問題点が指摘されたかということ、いくつか資料にあげておきました。1つは、現在のスタディスキルズの位置づけは2、3年次の演習のための準備ということにあるわけですが、それでいいの

うかということですが。

それから報告テーマについては先ほど説明した通りですが、学生の関心に合わせたテーマ設定にすることです。経済学科では、先ほども言いましたように、今年から採用をしました。これについてはこれから評価をしていかなければなりません。

それから、その他の技法を、いろいろなことを、教えるべきではないかという議論もあります。

たとえば、先ほどもお話しがありましたが、現在の学生はあまり本を読まない。したがって本を読んで、正確に要約をするとか、縮約をするということ、きちんとしてできない学生が多い。そこでそういった能力を身につけさせるようなことを行うべきではないか。あるいは文献を読んだ時、漫然と読むのではなくて、そこからどういう論点があるかというようなことを読みとり提示し得る。そういう能力をつけるべきではないかとか、いろいろな議論がございます。

まだ議論が行われている段階でして、とりあえずは今年、微修正をしたわけですが、こういうふうに変えようということは決まっています。そういうふうな状況です。

他にもまだ細かな点で、いくつかの論点がございます。たとえば共通テキストを作ったらどうだろうというふうな議論もありましたけれども、とりあえず今年は見送らせていただきました。

いろいろ問題があるかと考えていますが、今日の報告を参考にして、好ましい方向を考えていきたいというふうに思っています。以上です。

追記 経済学部では、FDの後、Working groupで検討し、来年度より新しい内容のスタディ・スキルズを始めることを決定しました。